



いすぐみだより
2018年度 3月号
社会福祉法人 尚徳福祉会 生麦保育園

春の訪れを、あちらこちらで感じられるようになってきました。散歩に行くと、虫や花を見つけて「ばいば〜い」と声を掛けたり、「あれはなに？」と様々な春の事象に興味を示しています。また、身の回りのことを自分で出来るようになってきた子どもたちは、進級する嬉しさを全身で表現しています。

ひなまつり制作

子どもたちが楽しみにしていた、ひな祭り制作。
 「これをつくります」と保育者が話すと、「やった〜」「はやくつくりたい！」と大盛り上がり。実際に折り紙をちぎったり、袋に詰めたりすると、ちぎった紙の形に「なんだこれ〜」と笑ったり、「これどうぞ」と袋に詰める折り紙を分け合ったりしていました。完成が近づくと、「いつ、もってかえていいの？」とワクワクしていた子どもたちです。



まめまき

2月1日。ついに子どもたちがドキドキしていた日がやってきました。朝から「おにくる？」とソワソワしていた子どもたち。午後になり、『おにのパンツ』の体操をしたり、『豆まき』の歌を歌っていると、鬼が登場。みんなで手作りお豆を投げて、泣く子もなく、楽しむことができました。

人形劇

まめまきと同じ日、保護者会主催の人形劇がありました。おじいさんとおばあさんの人形が出てくると、少し驚く姿もありましたが、馴染のある曲が流れると、「あ！〇〇だね〜」や「みっきーのやつだ」と一緒に歌いながら体を揺らしたり、手拍子をしたりして楽しんでいました。また、バイオリンの演奏を見ると、見たこと、聴いたことのない楽器の音に目を丸くしながら、聴き入っていました。



雪だるま

雪が大好きな子どもたち。中々雪は積もりませんが、お部屋の中で手作り雪だるまを作ることになりました。「ゆきだるまつくる？」と子どもたちに聞いてみると、「つくる！つくる！」と大はしゃぎ。大小違うサイズの白い丸に、タンポでポンポンと色を付けていきました。色がついてくると、「わ〜きれい」と嬉しそうな笑みを浮かべていました。雪だるまに顔を描くことを伝えると、「めと、おくちと、ほっぺもかいてもいい？」と楽しんでクレヨンを動かしていました。



こんなに大きくなりました

食べられなかった野菜も食べられるようになり、トイレにも進んで行けるようになりました。鼻水を自分で拭くこともできます。他にも自分たちで「やってみたい」という気持ちから様々なことにチャレンジし、達成感から自信につながり、更に出来ることも増えました。
 うさぎ組になる準備も万端な子どもたち。
 今からワクワクしている様子が伝わってきます。

1年間ありがとう ございました

子どもたちと沢山の思い出を作れたこと、りす組職員本当にうれしく思っています。これからも子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

